

# 第11章 計画の推進のために

地方財政を取り巻く環境は、長期にわたっての景気低迷の影響や、世界的な金融破綻に端を発した未曾有の経済危機など、かつてないほどの厳しい状況となっており、さらに、少子高齢化の進行に伴う社会保障費の増加をはじめ、高度情報化や環境問題への対応、社会資本の維持・保全等への負担増が求められるなど、引き続き厳しい財政運営が続くものと予想されることから、行財政改革や「選択と集中」の理念による施策の重点・選別をさらに推進するなど、持続的に発展する行財政運営が求められています。

このような中、将来像である「人と自然、歴史文化が輝く 魅力あるまち」の実現に向け、本計画を推進するためには、地域・事業者・行政等が役割を分担するとともに、互いに協力し合いながら新しい手法や視点により、地域づくりや地域課題の解決に取り組む必要があります。

このことから、「まちづくりは人づくり」を基本に、地域住民などの意見やアイデアを生かし、地域・事業者・行政等が対等の立場で、それぞれが「できること」、「やるべきこと」の役割を分担し、目的と責任を共有しながら、協力して地域づくりを進めます。



## 計画を推進させるための役割等

### 1. 地域の役割

「地域づくりの主角」は「住民」です。地域特性を生かした地域づくりや課題解決への取り組みを主体的に進めるため、町内会・自治会や地域振興協議会等を中心とした自主的な地域づくりを行うなど、男女がお互いに認め合いながら市民協働による地域づくりを進めます。

### 2. 事業者の役割

事業者は、地域の構成員として、企業活動を通じて本地域の魅力を向上させるとともに、環境産業など次世代型産業の活発化や、事業者が持つまちづくりについての専門的な技術・知識や人材の提供、都市ストックとして活用できる土地や施設の地域開放といった社会貢献活動などにより地域住民との共存共栄を図ります。

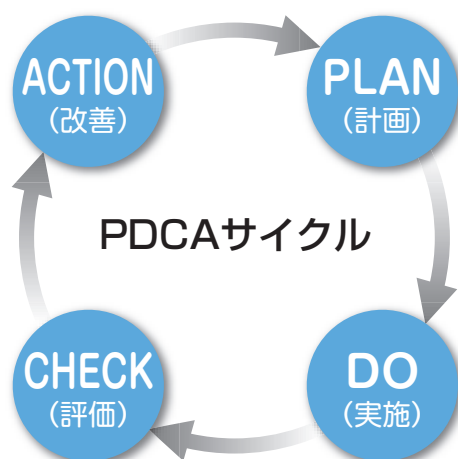
### 3. 行政の役割

国や県、周辺市町村などとの連携を図りながら、本計画に掲げる施策・事業を総合的かつ効果的に推進するとともに、関係各部課の施策・事業の計画内容や進捗状況、実施に際しての情報等を共有するため、横断的な推進組織を整備するなど、市民活動を支援する体制づくりを強化します。

## 計画の評価・検証

本計画の進行管理は、第五次総合計画実施計画の中で実施していきます。本計画では、その実効性を確保するため、PDCAサイクル（※28）を導入し、財政計画、行政評価との連携を強化しながら、社会経済情勢や財政状況等への確に対応するとともに、評価（検証）、改善（見直し）等を行い次年度以降の施策の推進に生かしていきます。

PDCAサイクルの概念図（継続的改善による向上）





# 用語解説

---



## ■用語解説■

- ※ 1 **地域コミュニティ**（6、23、34、44、50ページ）  
日常の暮らしやふれあい、共同の場。連帯感や信頼関係を築く地域のつながり。
- ※ 2 **国立社会保障・人口問題研究所**（6ページ）  
厚生労働省に設置され、社会保障や人口問題について研究する機関。
- ※ 3 **生産年齢人口**（7ページ）  
人口の年齢構造を分析するうえで区分されるもので、15～64歳の人口を指す。
- ※ 4 **地産地消**（11、20、37、46、52ページ）  
地域生産地域消費（ちいきせいさん ちいきしょうひ）の略語で、地域で生産された農産物や水産物をその地域で消費すること。
- ※ 5 **インキュベーション**（12、38ページ）  
日本語訳では、卵がかえることの意味もあり、産業界では、新しい事業を創出すること。
- ※ 6 **ものづくりインキュベーションセンター**（12、46ページ）  
正式名称「郡山テクノポリスものづくりインキュベーションセンター」。起業家・新事業に取り組む企業を対象に、新製品を研究・製作する場。試作のための設備、経営・技術両面での支援のための人材を提供する産学官連携の拠点として、平成18年に日本大学工学部の敷地内に設置。
- ※ 7 **天領**（14ページ）  
江戸幕府の直轄領のことを指す通称。
- ※ 8 **沼上発電所**（15ページ）  
安積疏水の流水と落差を利用して、明治32年6月に郡山絹糸紡績会社が建設した水力発電所。
- ※ 9 **ユニバーサルデザイン**（17、34、40、48、54、60ページ）  
障がい者、高齢者、健常者、国籍、年代の区別なしに、すべての人が使いやすいよう、建物、製品、都市構造などのデザインをすること。
- ※ 10 **新産業都市**（22、46ページ）  
新しい工業開発の中心地をつくるために国の支援制度のもと建設を進めてきた都市。常磐・郡山地区を含み、当時、全国で15地区が指定されている。

※11 テクノポリス構想 (22ページ)

「技術集約都市」の意味。エレクトロニクス、バイオテクノロジー、新素材産業など先端技術産業を中心として地域開発を目指すもの。

※12 コンベンション機能 (22ページ)

会議場、展示場、ホール等の施設及び参加者などの宿泊施設等。

※13 協働 (25、33、34、35、40、48、54ページ)

市民と行政等の各主体が役割と責任を分担し、協力・連携して同じ目的に向かって働くこと。

※14 男女共同参画 (社会) (34、38ページ)

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会。

※15 若者・夢通り (35、50ページ)

市内の高校生・大学生等からなる「平成20年度 こおりやま若者・夢会議」において、提言された「東部地域の将来像」の中に登場する、将来の美術館通りの姿を表したものの。

※16 二地域居住 (35ページ)

都市住民が生活基盤を都会に置きながら、ある程度長い期間、農山漁村などの同一地域で暮らす生活様式。

※17 NPO (35ページ)

自治体や企業とは独立した団体として、営利を目的としない社会的な公益活動を行う団体。(Non Profit Organizationの略)

※18 耕作放棄地 (37、46ページ)

以前耕地であったもので、過去1年間以上作物を栽培せず、しかも、この数年の間に再び耕作するはっきりした意思のない土地。

※19 産学官連携 (38、46ページ)

大学や研究機関が持つ研究成果や教授等の知識・経験などを、行政・事業者との連携により、新製品・新技術の開発につなげるための仕組み。

※20 U・J・Iターン (38ページ)

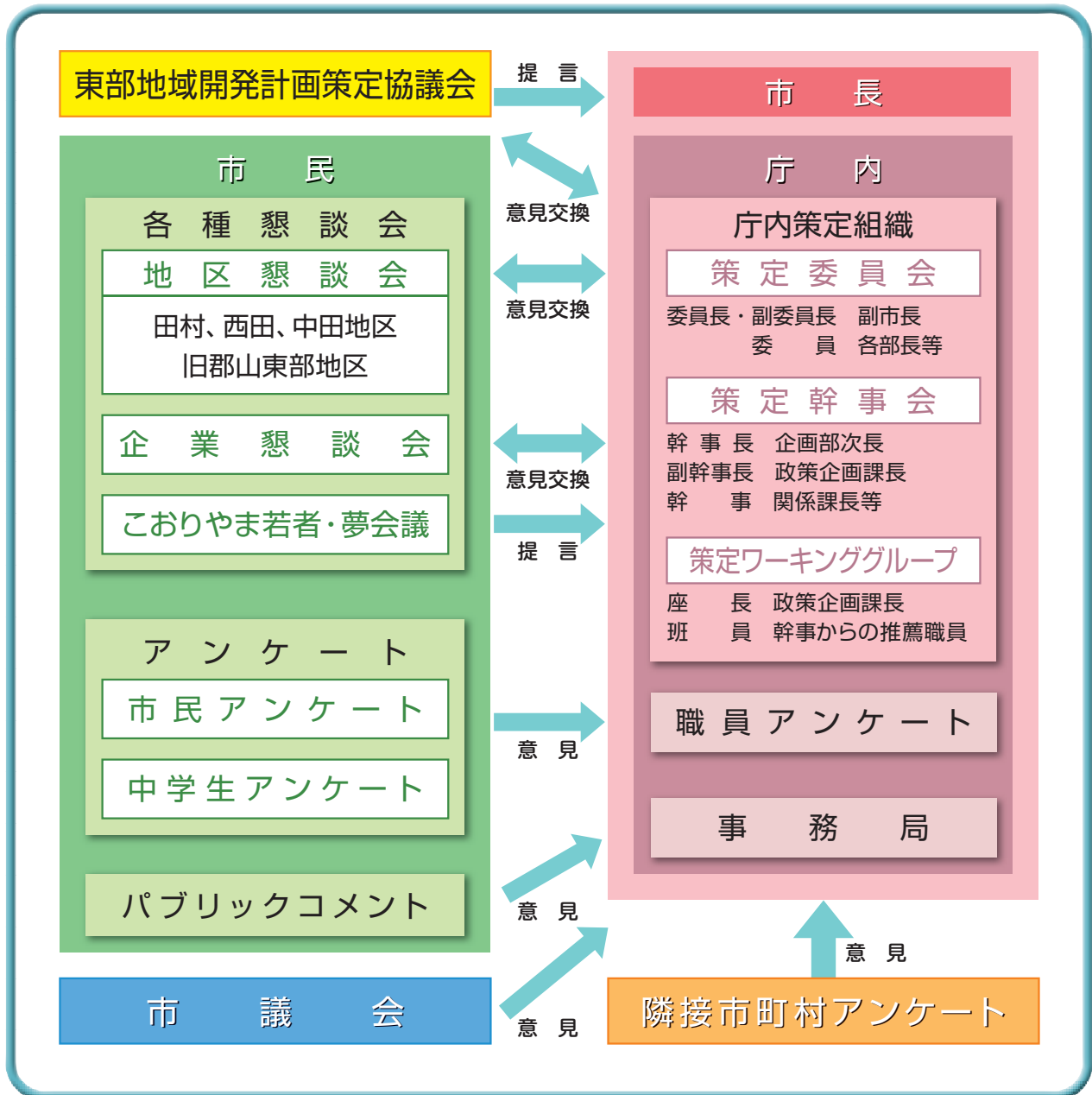
地方で生まれ都心で就労や就職した人が、就職のために出身地等に帰る形態。主に、Uターンは出身地で、Jターンは出身地と都心の間の地域で、Iターンは出身地と関係のない地域で就職する形態。

- ※21 「東北のウィーン 楽都 郡山」(40、56ページ)  
平成21年3月策定の「郡山市シティセールス基本方針」に定められている郡山市の都市イメージ。
- ※22 環境保全型農業(46ページ)  
土づくりを通じて化学肥料・化学農薬の使用を低減し、環境への負荷を軽減するよう配慮した農業生産方式の総称。
- ※23 トップセールス(46ページ)  
市長による宣伝・誘致活動。
- ※24 郡山ブランド認証産品(52ページ)  
郡山市内で生産される農林水産物(一次産品)又は市内事業所で製造・加工される郡山産品のうち、郡山市のブランド産品としてふさわしいものを市が認証したもの。東部地域では、平成22年3月現在、阿久津曲がりねぎ(農林水産物)や高柴デコ屋敷の張子、三春駒、海老根伝統手漉和紙(民芸品)等が認証を受けている。
- ※25 交流人口(62ページ)  
通勤・通学、買い物、文化鑑賞・創造、学習、習い事、スポーツ、観光、レジャー、アミューズメントなど、目的を持ってその地域を訪れる(交流する)人のこと。
- ※26 コミュニティビジネス(63ページ)  
住民が主体となって、地域が抱える課題をビジネスの手法により解決し、またコミュニティの再生を通じて、その活動の利益を地域に還元するという事業の総称。
- ※27 郡山地域高度技術産業集積活性化計画(63ページ)  
郡山市や須賀川市を中心とする地域を、新たな事業を育みその巣立ちを助ける機能をもつ「地域インキュベータ」として位置づけ、地域の有する新事業創出のための資源の質の一層の向上を図るとともに、これらの資源を最大限に活用しながら、将来成長が見込まれる情報通信関連分野、医療福祉関連分野、環境関連分野、新製造技術関連分野を中心に、その積極的な振興を図るなど、新事業の創出に向けた主体的な取組みを推進するため、平成12年12月に福島県が策定。
- ※28 PDCAサイクル(66ページ)  
計画(PLAN:プラン)、実施(DO:ドゥ)、評価(CHECK:チェック)、改善(ACTION:アクション)により継続的に改善活動を行うサイクル。

# 資料編

<b>I 策定体制</b> .....	73
東部地域開発計画策定協議会 .....	74
庁内策定組織 .....	77
策定委員会 .....	77
策定委員会幹事会 .....	77
策定委員会ワーキンググループ .....	77
<b>II 懇談会</b> .....	78
地区懇談会 .....	78
企業懇談会 .....	79
こおりやま若者・夢会議 .....	79
<b>III アンケート</b> .....	81
市民アンケート .....	81
中学生アンケート .....	81
職員アンケート .....	81
隣接市町村アンケート .....	82
<b>IV パブリックコメント</b> .....	82

# I 策定体制



郡山市東部地域づくり基本計画

## ◆東部地域開発計画策定協議会

### (1) 東部地域開発計画策定協議会設置要綱

#### (趣 旨)

第1条 本市東部地域の持つ地域資源及び地理的特性を最大限に生かした魅力と活力にあふれる地域づくりを進めるための、(仮称)東部地域開発計画(以下「計画」という。)の策定にあたり、必要な事項について協議するため、東部地域開発計画策定協議会(以下「協議会」という。)を置く。

#### (所掌事務)

第2条 協議会は、計画の策定に係る必要な事項について協議し、市長に提言を行う。

#### (組 織)

第3条 協議会は、委員15人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 市内に活動の拠点を置く非営利団体その他団体
- (3) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認める者

#### (任 期)

第4条 委員の任期は、第2条の規定による市長への提言を行う日までとする。

#### (会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長1人を置き、委員の互選によって定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

#### (会 議)

第6条 協議会の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 会長は、会議の運営上必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

#### (庶 務)

第7条 協議会の庶務は、企画部政策企画課において処理する。

#### (委 任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営について必要な事項は、会長が別に定める。

#### 附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行し、設置の目的を達したときは、その効力を失う。

(2) 東部地域開発計画策定協議会委員名簿

役職	委員名	所属団体及び役職等
会長	大槻 順一	郡山商工会議所 副会頭
副会長	小林 裕子	郡山市観光物産振興協会 理事
	有馬 賢一	郡山商工会議所 都市・情報委員会 委員長
	堀田 進	郡山田村農業共済組合 組合長理事
	鈴木 章紀	郡山市農業協同組合 営農経済担当理事
	鱒沢 秀雄	財団法人郡山コンベンションビューロー 理事
	鈴木 辰雄	東日本旅客鉄道株式会社郡山駅 駅長
	幕田 宙晃	社団法人郡山青年会議所 理事長
	堀井 雅史	日本大学工学部 教授
	北川 圭子	郡山女子大学家政学部 教授
	安藤 洋美	田村地区代表
	岩崎 博一	西田地区代表
	宗像 芳久	中田地区代表
	宮川 雄次	旧郡山地区代表
	先崎 福義	市民代表（一般公募）

※敬称略、順不同 ※所属団体及び役職等は平成21年7月10日現在のものです。



東部地域開発計画策定協議会の会議の様子



### (3) 会議開催経過

回次	開催日	主な内容
第1回	平成21年7月10日	委嘱状交付式、計画の概要、計画の構成
第2回	平成21年8月21日	計画の構成、基本方針
第3回	平成21年9月17日	基本方針
第4回	平成21年10月23日	地域づくり戦略等
第5回	平成21年11月24日	パブリックコメント案、将来像等
	平成22年2月16日	市長への提言

### (4) 市長への提言

平成22年2月16日

郡山市長 原 正 夫 様

東部地域開発計画策定協議会

本協議会は、本市東部地域の持つ地域資源や地理的特性を最大限に生かした計画の策定のため、各分野の有識者や各地区の代表者等で構成する検討組織として、昨年7月10日からこれまで5回の会議を重ね、各委員の貴重な経験と専門的な知識を生かした活発な審議を行ってまいりました。

本基本計画では、東部地域の将来に向けた目標として、「人と自然、歴史文化が輝く 魅力あるまち」とする「将来像」を定め、「創る」、「生かす」、「守る」の「3つの基本理念」のもと、地域づくりを進めることとしております。

本協議会といたしましては、東部地域の活性化のため、各委員の意見が反映された本基本計画に基づき、今後も積極的な施策の展開を図られますよう提言いたします。



市長への提言の様子



## ◆庁内策定組織

### 東部地域開発計画策定委員会

(1) 目的

本計画の策定について調査及び審議をするため設置。

(2) 組織

副市長を委員長・副委員長とした部長等からなる16名。



年度	回次	開催日	主な内容
平成20年度	第1回	平成20年10月21日	計画策定の概要、スケジュール等
平成21年度	第1回	平成21年5月8日	策定経過、計画の構成等
	第2回	平成21年7月30日	基本方針等
	第3回	平成21年10月6日	地域づくり戦略等
	第4回	平成22年2月5日	パブリックコメントの結果等

### 東部地域開発計画策定幹事会

(1) 目的

東部地域開発計画策定委員会に必要な事項について調査及び検討を行うため設置。

(2) 組織

企画部次長を幹事長、政策企画課長を副幹事長とした関係課長等からなる20名。



年度	回次	開催日	主な内容
平成20年度	第1回	平成20年10月31日	計画策定の概要、スケジュール等
平成21年度	第1回	平成21年4月23日	策定経過、計画の構成等
	第2回	平成21年7月23日	基本方針、地域づくり戦略等

### 東部地域開発計画策定ワーキンググループ

(1) 目的

本計画の原案の作成に必要な事項について専門的な調査及び研究を行うため設置。

(2) 組織

政策企画課長を座長とし、幹事会が推薦する職員からなる20名。



年度	回次	開催日	主な内容
平成20年度	第1回	平成20年10月31日	計画策定の概要、スケジュール等
	第2回	平成20年11月28日	議題の抽出、事業検討等
	第3回	平成21年3月18日	策定経過、計画の構成等
平成21年度	第1回	平成21年4月17日	計画の構成等
	第2回	平成21年7月14日	基本方針、地域づくり戦略等

## Ⅱ 懇 談 会

### ◆地区懇談会

#### (1) 目的

本計画の策定にあたり、各地区の課題や地域資源を把握するとともに、地区の方々から生活に身近な意見や提案をいただき、計画に反映させるために実施。

#### (2) 実施内容

平成20年度 第1回 計画策定方針の説明、地域の「良い点」「改善すべき点」の抽出  
 第2回 地域の「良い点を伸ばす取組み」「良くない点を改善する取組み」について意見交換  
 平成21年度 計画案の説明及び計画案に対する意見交換、集約

#### (3) 懇談会開催経過

地 区 名 (会場)	平成20年度				平成21年度	
	第 1 回		第 2 回		開催日	参加者数
	開催日	参加者数	開催日	参加者数		
田村(田村行政センター)	11月12日	12名	12月17日	7名	11月18日	15名
西田(西田ふれあいセンター)	11月14日	11名	12月2日	15名	11月16日	13名
中田(中田ふれあいセンター)	11月13日	7名	12月1日	9名	11月19日	11名
旧郡山東部(東部地域公民館)	12月19日	27名	2月17日	26名	11月18日	24名



田村地区懇談会の様子



西田地区懇談会の様子



中田地区懇談会の様子



旧郡山東部地区懇談会の様子

## ◆企業懇談会

### (1) 目的

本計画の策定にあたり、本地域の活性化に欠かせない産業の振興のために必要なものについて、地元企業の方々から意見や提案をいただき、計画に反映させるために実施。



郡山中央工業団地会との懇談会の様子

### (2) 実施内容

平成20年度 計画策定方針の説明、意見交換、集約

平成21年度 計画案の説明及び計画案に対する意見交換、集約

### (3) 懇談会開催経過

企業名等	平成20年度 開催日	平成21年度 開催日
保土谷化学工業株式会社郡山工場	2月9日	12月25日
日本パーオキサイド株式会社郡山工場	2月17日	12月24日
日本化学工業株式会社福島第一工場	2月9日	12月22日
東北工業株式会社	2月12日	12月17日
郡山中央工業団地会	2月18日	—

## ◆こおりやま若者・夢会議

### (1) 目的

将来の郡山市を担う若者の皆さんの市政への参画機会を拡充し、まちづくりに対する意見などを市政に反映させるために設置。

### (2) 実施内容

市内の高校、専門学校、大学に在籍する学生・生徒のうち、学校長等の推薦を受けた31名を3つのグループに分け、各テーマについて、若者の皆さんの自由な発想で意見交換を行っていただき、市長へ提言書を提出しました。

Aグループの皆さんからは、東部地域の将来像をテーマに、提言をいただきました。

(3) 委員名簿（Aグループ）

役 職	委 員 名	学 校 名 等
	江 連 初 美	あさか開成高校
	太 田 千 尋	安積黎明高校
	田 中 克 幸	郡山東高校
	橋 本 彩	帝京安積高校
	長谷川 愛 子	尚志高校
	古 川 義 貴	郡山高校
	松 本 航	安積高校
	芳 賀 久 美	郡山健康科学専門学校
グループリーダー	矢 田 竜 一	郡山情報ビジネス専門学校
	佐々木 緑	奥羽大学
	佐 藤 諒 一	日本大学工学部

※敬称略、学校種別・五十音順

(4) 会議開催経過

回 次	開催日(H20)	主 な 内 容
第1回	8月19日	委嘱状交付式、東部地域等視察 グループリーダー等の選出
第2回	9月13日	「良い点」、「改善すべき点」及び「良い点を伸ばす取組み」、「良くない点を改善するための取組み」をワークショップ形式により検討
第3回	11月15日	市長へ提言書を提出 市長との懇談

(5) 未来の郡山物語「風は東から ～私のふるさと 住みつづけたいまち～」

こおりやま若者・夢会議Aグループの皆さんが描く将来の郡山市の姿「未来の郡山物語」を本計画書中の85ページに掲載しています。



市長への提言書提出の様子

## Ⅲ アンケート

### ◆市民アンケート

#### (1) 目的

本計画の策定にあたり、市民の皆様の要望や意見などを把握し、計画へ反映させるため実施。

#### (2) 実施内容

- 対象 18歳以上の市民 男女2,000名（地域、性別、年代を考慮した無作為抽出）  
※東部地域在住者 1,000名 その他地域在住者 1,000名
- 実施時期 平成20年7月24日から8月11日
- 調査方法 郵送による配票、回収
- 設問数 40問
- 回答者数及び回答率 605名（30.25%）

### ◆中学生アンケート

#### (1) 目的

本計画における、東部地域の将来像の検討にあたり、本地域の将来を担う若者の意見などを把握し、反映させるため実施。

#### (2) 実施内容

- 対象 東部地域内に設置されている中学校8校に通う中学2年生
- 実施時期 平成21年11月5日から20日
- 調査方法 学校を通じて配票、回収
- 設問数 1問（東部地域の将来像についての意見、提案）
- 回答者数 284名

### ◆職員アンケート

#### (1) 目的

職員の東部地域に関する意識や考え方等を把握するため実施。

#### (2) 実施内容

- 対象 市職員約2,660名
- 実施時期 平成20年12月17日から平成21年3月31日
- 調査方法 簡易電子申請申込システムにより実施
- 設問数 30問
- 回答者数及び回答率 1,653名（約62.1%）



## ◆隣接市町村アンケート

### (1) 目的

本計画の策定にあたり、隣接する自治体との広域的な連携の視点が重要であることから、その可能性等について把握するために実施。

### (2) 実施内容

- 対 象 本市東部地域と隣接する 6 自治体  
(須賀川市、田村市、本宮市、三春町、小野町、平田村)
- 実施時期 平成21年 1 月 9 日から23日
- 調査方法 各自治体訪問による配票、郵便により回収
- 設 問 数 7 問



## IV パブリックコメント

### (1) 目的

本計画の策定にあたり、計画案を公表し、市民の皆様から計画案に対する意見をいただき、必要に応じて計画案の修正を行うために実施。

### (2) 意見募集期間

平成21年12月8日から平成22年1月8日

### (3) 実施結果

提出方法	提出者数	意見数
持 参	3 名	20 件
郵 便	0 名	0 件
電 子 メ ー ル	2 名	7 件
フ ァ ク シ ミ リ	4 名	7 件
そ の 他	0 名	0 件
計	9 名	34 件





# 皆さんが思い描く 東部地域の 将来イメージ

ここでは、市内の高校生、専門学校生、大学生などの若者からなる「こおりやま若者・夢会議」からの提言である「東部地域の将来像」を描いた「未来の郡山物語」と、本計画に係る懇談会に参加いただいた住民の皆さんなどからのご意見、ご提案をもとに、皆さんが思い描く東部地域の将来イメージを「物語」と「イラスト」として表しています。

## こおりやま若者・夢会議 「未来の郡山物語」

風は東から ～私のふるさと、住みつづけたいまち～ ……85

## 住民の皆さんが描く将来イメージ 「未来物語（Ⅰ～Ⅲ・イラスト）」

……87



## こおりやま若者・夢会議「未来の郡山物語」

この「未来の郡山物語」は、市内の高校生、専門学校生、大学生からなる「こおりやま若者・夢会議」の中で、若者が思い描いた東部地域の将来の姿です。

### 風は東から ～私のふるさと、住みつづけたいまち～

久しぶりに郡山駅に降り立つ。新幹線の改札を抜けると巨大な「桜周遊マップ」がお出迎えをしてくれている。「写真で見ても相変わらず見事な枝振りだなあ。」私が学生の頃は東口に行くまでに長い通路を歩いたものだったが、今では改札を抜けるとすぐに東口広場だ。東西地下道も整備され、案内のサインや、美術館に加え近頃オープンした博物館と音楽堂でのイベント案内などを見ているうち、あっという間に東口にたどり着くことができる。

広場は、緑あふれる憩いの空間として、みんな思い思いに過ごしている。ベンチに腰掛けて読書する人、ストリートライブを眺める大勢の若者や家族連れ。ここは景観に配慮した整備がされていて、近くの洒落たお店が続くプロムナードまで、調和した街並みが私をほっとさせる。

ターミナルから路線バスに乗り、懐かしいふるさとへ。バスの本数も増えたとし、道路も以前よりゆったりと走れるようになり、バスでの移動も便利になった。道路の整備が進んでいるのもさることながら、この陰には地域みんなの取り組みがあるらしい。観光客が訪れる場所を清掃するばかりでなく、走りやすいように道路脇の雑草の刈り込みまでしているらしい。その甲斐があつてか、私がいま暮らしている街でも、盛んに「郡山」のPRがされている。特に私が学生時代を過ごした東部地域の、よく知っている桜などの花や、歌舞伎などの伝統芸能、守山藩の歴史、張り子人形などの特産品や様々なもの（一緒に遊びに行っていたみんなもどうしているかなあ…）が、テレビの旅番組で特集され、ツアーが組まれるなど、一躍脚光を浴びている。恵まれた自然環境の良さにあこがれたり、農業を営むために引っ越してくる人たちもいるとか。

子どもたちが水と戯れている阿武隈川にかかる橋を渡ると、さっき東口へ続く通路で見た「音楽堂」などが集まったエリアにさしかかる。かつて「美術館通り」と呼ばれていたこのあたりは、今、音楽堂や博物館を始めとして、自由に壁画の描ける場所やストリートバスケットのコートなど、美術のみならず様々な若者向けのスポットが集まり、いつしか「若者・夢通り」と呼ばれる、郡山の若者文化の情報発信基地になっているらしい。ここでのイベントの様などもインターネットでもよく見かけるものな。

この地域には、市民の人気スポットでもある歴史と自然を生かした公園もあり、多くの家族連れでにぎわっている。この他にも東部地域には多くの公園があり、キャンプができたり、ハイキングができたりと、目的に応じて楽しむことができる。

私の家が近づいてきた。通学の時、少し肩をすくめて歩いた道も、歩道ができてすっかり安全になっている。私が駄菓子を買っていた商店街も、地域の文化にあわせた特長のあ  
る街路灯が整備され、直売所ではブランド化された特産品が売られている。

このあたりも、都市の便利さと、豊かな自然がほどよく調和している。ずいぶんまちも変わったなあ…。でも変わらないのは、この地域のあたたかさだ。昔私が駆け抜けるように通った道は時間を変えればみんなの安らぎの場らしい。そこで、誰かがひなたぼっこしたり、猫が大きくのびをしたり。みんなの笑い声が聞こえてくる…。

今夜は久しぶりの我が家で、昔よく食べた、母特製の漬物（直売所でも買えるらしい、やるなあ、母さん！）と、お隣りのおじさんが作った「どぶろく」でのんびり過ごし、明日は東口に買い物でも行ってみるか。今日見かけた、音符の形をした街路灯の間に見つけたあのカフェにでも行って、次に帰ってくるときの計画でものんびり考えよう。

次は、このまちにずっと<sup>すみっつける</sup>帰ってくることになるのだから…。



## 住民の皆さんが描く将来イメージ「未来物語」

これは、皆さんが思い描く東部地域の将来イメージを「人づくり・地域づくり」、「産業」、「住環境・都市基盤」をテーマとした3つの「未来物語」として表したものです。

### 未来物語Ⅰ ～人づくり・地域づくり～

主に阿武隈川から東側の地域では、全国に誇れる自然や伝統文化などの地域資源を生かした活動や地域に根ざした魅力ある教育環境づくり、子育て支援をはじめとする地域全体での支え合いによる地域福祉の充実、定住・二地域居住の推進など、若い世代をはじめ、高齢者や女性が「地域づくりの担い手」の中心として自主・自立の協働による地域づくりが進められています。

このことにより、地域住民が自信と郷土愛に満ち溢れ、誰もが「住み続けたい」、「住んでみたい」と思える魅力ある地域の実現と同時に、地域を支える持続性のある地域コミュニティが形成されています。

また、地域の自主的な活動はもとより、多様な主体による地域づくりが進むとともに、それぞれの地域が連携し、協力し合いながら、地域づくりを進めるためのネットワークが形成され、東部地域全体の地域力が高まっています。

市立美術館を中心とした“森の中の文化ゾーン”では、歴史的遺跡を復元した風土記の丘公園等の新たな文化拠点施設を活用した文化活動や体験学習が行われるなど、歴史・文化にふれることができ、地域住民や訪れる人々の憩いの場となっています。

また、通称「美術館通り」は、“森の中の文化ゾーン”の玄関口としての環境整備が進み、賑わいとふれあいのある「若者・夢通り」として親しまれています。

東部地域の玄関口である郡山駅東口では、噴水やイベントステージなどがある、水と緑、そして花があふれる開放的な広場で、若者による音楽イベントや周辺市町村と連携・協働による伝統芸能祭りが行われるなど、広域交流拠点が形成されています。



## 未来物語Ⅱ ～産業～

東部地域においては、恵まれた地域資源や郡山東インターチェンジなどの地理的特性等を生かしながら、農商工連携プロデューサーの活躍により、本地域の基幹産業である農業、商業、工業、そして観光の新たな連携強化が図られ、本地域はもとより、本市全体の産業の振興につながっています。

農業においては、新規就農者や農業生産法人などを中心に、新たな担い手として、地域農業を支えている一方、企業による農業経営も盛んに行われています。

ここでは、国営郡山東部地域総合農地開発事業等により整備された農業基盤を生かし、効率的かつ安定的な農業経営が確立しており、また、農業農村体験による都市と農村との交流が活発に行われるとともに、観光農園や農村レストランによる賑わいも創出されているほか、大学や企業との共同研究により気候風土に適した付加価値の高い特産品等が開発され、直売施設やインターネットによる販売が盛んに行われています。

また、自然環境に配慮した環境保全型農業が進んでいます。

商業においては、郡山駅を中心に、駅東口と西口とが一体となった魅力と活力ある広域商業拠点が形成されています。また、各地域では生活に密着した特色ある商店街づくりが進められるなど、魅力と活力ある商業地が形成されています。

工業においては、本市産業を牽引してきた郡山駅東口周辺や中央工業団地の企業を中心とした企業間ネットワークの構築、産学官ネットワークによる新たな事業創出や新分野進出が積極的に行われるなど、次世代につながる工業の振興が図られるとともに、地域との共存共栄による地域づくりが進められています。

観光においては、農商工業の連携や周辺市町村などとの地域を越えた結びつきが強まり、それぞれの地域特性を生かした体験・交流型観光や滞在型観光の充実により、泊まりがけで周遊する人たちや福島空港を利用した海外をはじめ、全国各地からの観光客も定着し、地域全体が賑わいを見せるなど、高速交通網を生かした広域観光ネットワークの確立による波及効果が広がっています。



### 未来物語Ⅲ ～住環境・都市基盤～

豊かな自然や里地里山の保全、古民家の再生など、古（いにしえ）から育んできた原風景を守り生かした地域づくりが行われ、そこに住む人や訪れる人々に憩いと安らぎを与えています。

それらの活動は、本地域の豊かな自然をかけがえのない財産として、次代に継承するための環境保全活動、さらには、地球温暖化対策や循環型社会の構築へとつながっています。

一方では、自然環境に配慮しつつ、東西・南北に走る幹線道路や身近な生活道路、新たな橋りょう、上水道や污水处理施設、公共公益施設などといった都市基盤の整備が進むとともに、周辺市町村と連携した人と環境に優しい新たな公共交通体系が確立しているなど、快適で安全・安心な生活環境が形成されています。

東部地域の玄関口である郡山駅東口では、水と緑、そして花があふれる開放的な広場、公共交通の起点にふさわしいバスターミナルや東部地域へ延びるシンボルロードなどが整備され、さらに、その周辺には商業施設や医療福祉施設、集客施設やコンベンション施設が整備されるなど、都市機能が充実するとともに、まちなか居住の推進により、駅東西地区が一体となった賑わいと活力ある中心市街地となっています。

また、各地域では、公共施設や駅、地域資源を核とした地域拠点が形成され、さらに、それらが相互に連携して補完し合うことにより、本地域全体が持続的に伸展し続けるとともに、本市発展を支えています。









---

---

## 郡山市東部地域づくり基本計画

平成22年3月

■発行 郡山市

■編集 郡山市企画部政策企画課

〒963-8601 郡山市朝日一丁目23番7号

TEL：024-924-2021/FAX：024-924-2822

E-mail：seisakukikaku@city.koriyama.fukushima.jp

郡山市ウェブサイト：<http://www.city.koriyama.fukushima.jp>

---

---



# 郡山市

